

学校農業ク連の 避暑対策を支援

J A 岐阜信連が交付

県信用農業協同組合連合会（JA岐阜信連）は、県内の農業関連学科設置高校の生徒でつくる県学校農業クラブ連盟に支援金200万円を交付した。来年の東京五輪・パラリンピックに

向けた同連盟の避暑対策の取り組みを支援する。

同連盟は、農業高校など県内7校の生徒約2900人が所属。五輪会場のクールスポットづくりに参加しようと、パッションフルーツを育てたグリーンカーテンと岐阜にゆかりのあるヒヨウタンを用いたイルミネーションの設置に各地で取り組んでいる。支援金はイルミネーションの装飾費用や各校の活動費に充てる。

岐阜市宇佐南のJA会館で行われた交付式で、JA岐阜信連の櫻井宏経営管理委員長が同連盟の大橋恵会長(17)＝大垣養老高3年＝に目録を手渡し、「世界に岐阜の農業を発信してほしい」とあいさつ。大橋会長は「各地でPR活動し、東京五輪で最高のおもてなしができるよう頑張りたい」と決意を述べた。

(河合修)



櫻井宏会長から目録を受け取る
大橋恵会長(右)＝岐阜市宇佐
南、JA会館